

SGI® InfiniteStorage Data Lifecycle Management Server

特長

- ・データのライフサイクル管理ポリシーを自動化するターンキーソリューション
- ・高信頼性のデータ・マイグレーションとデータ保持を実現
- ・業界をリードするデータ完全性とデータ保護
- ・堅牢な実証済みテクノロジーが基盤
- ・投資保護を確実にするスケーラビリティ
- ・ストレージの購入・管理コストを大幅削減
- ・SANまたはNAS接続のどちらの既存環境にも柔軟に対応
- ・全ストレージ・ソリューション製品とシームレスに統合

データのライフサイクル管理ポリシーを自動化するターンキーソリューション

一般的なコンピューティング環境におけるデータ量は、2年ごとに2倍のペースで増大しています。データ集約型環境においては、半年から1年半で倍増しています。今日のもっとも複雑な問題を処理するには、大量のデータが必要とされ、結果として大量のデータが生成されることとなります。プロセッサの高速化、ストレージ・ハードウェアの低価格化、さらに高度化するデバイス、出力形式の多様化に加え、準拠すべき法規制、コーポレート・ガバナンスなどの市場からのプレッシャーは今まで以上にきめ細かな計算結果を求めて、これらすべてが複合されることでデータの爆発的増大に拍車がかかっているのです。現在、既存のツールやプロセスは、多くの環境においてこれらの負担に耐え切れなくなっています。その結果、ストレージ購入やその管理を含めた総合的なコスト（TCO）は、著しく増加しています。データ・ライフサイクル管理（DLM）は、このデータの爆発的増大を、コスト効率よく、また長期間にわたって管理するためのアプローチです。お客様は、価値や重要度に応じてデータを適切に保持することが可能となります。

SGIは、長年にわたって、世界中でもっとも大規模かつ複雑で要求の厳しいデータ・ライフサイクル管理のためのコア環境を提供してきました。そして今SGI® InfiniteStorage Data Lifecycle Managementサーバ（DLMサーバ）の登場により、時間の経過とともに変化するデータの価値を自動管理するために必要なすべてが、ハイパフォーマンス・コンピューティングのワークフローにフォーカスして構築されたターンキー・ソリューションとして利用可能になりました。DLMサーバは、ネットワーク接続ストレージ（NAS）とストレージ・エリア・ネットワーク（SAN）のどちらの構成でも使用でき、コンピューティング環境全体にわたりデータ・ライフサイクル管理ポリシーの完全な自動化を実現します。

高信頼性のデータ・マイグレーションとデータ保持を実現

DLMサーバは、ストレージ・アセットを仮想化し、ユーザ指定の基準に基づき自動でデータを配置し移動します。これにより最適なコスト・プロファイルに沿った最大のパフォーマンスをバランスよく実現します。DLMサーバを使用することにより、使用頻度の低下や、古くなったデータをアーカイブすることなく、有効期限まですべての関連データを、すべてのユーザ、アプリケーション、管理者から使用・閲覧可能な状態で保持できます。最速で高価な最新のストレージ・メディアに保存する手間とコストは不要になります。この柔軟性によって、ストレージ・メディアへの長期にわたる投資を抑え、RAID、JBOD、シリアルATA、テープなどの各種ストレージ・デバイスを使用して、最小限のコストで最大のパフォーマンスを引き出すことが可能となります。

実証済みのデータの完全性とデータ保護

ディスクおよびテープサブシステムの手動での管理や、後日データを利用できるようにするためのストレージ・ロケーションのジャーナリングは、多大な時間のかかる作業です。こういった作業においては、作業者のエラーやデータフォーマット変換の失敗、メディアの完全性の問題といった形で、データの完全性を損ないかねません。

DLMサーバは、これらのストレージ管理における問題を透過的に解決します。ストレージ・デバイスの階層間のデータ移動を自動化し、データフォーマットを保持します。さらに、データの完全性の検証や、データ格納前のストレージ・ハードウェアの完全性の検証を繰り返し行います。ポリシーに反する変更防止のため、データアクセスに制限をかけることもできます。実行されたすべての変更は履歴に残されるため、完全な検証が可能となります。

業界をリードするパフォーマンス

スケーラビリティは、ハイパフォーマンス・コンピューティングのあらゆる局面で非常に重要です。これは、データのライフサイクル管理においても例外ではありません。DLMシステムのパワーを証明する確かな尺度として、スケーラブルなパフォーマンスが挙げられます。DLMサーバは、パフォーマンスに対するニーズがそれ程高くない場合も、また、一段上のパフォーマンスが要求される場合でも、それぞれの負荷に合わせた能力で対応します。SGIシステムでデータ・ライフサイクル管理を行っているお客様は、通常、日常的に150GBから500GBのデータを移動しています。環境によっては、日々3TBを超えるデータの移動を実行する場合があります。



SGI® InfiniteStorage Data Lifecycle Management Server

投資保護を保証する、まさに無限のスケーラビリティ

データ量が增大する時も持続して能力を発揮するデータ・ライフサイクル管理ソリューションを今後選択する際に、管理可能なファイル数、各ファイルのサイズ、そして総容量が重要なポイントとなります。DLMサーバは、単一または複数のファイルシステムで数百万単位のファイルを管理できるように構築されています。SGIシステムでデータ・ライフサイクルを管理するお客様にとって、数ギガバイトのファイルをストレージ・デバイス間で移動させることは日常的な作業ですが、DLMサーバを用いることで数テラバイトに達するストレージ全体を効率的に管理することができます。

容易な管理で管理コストを削減

DLMサーバをインストールし、適切に構成設定することにより、通常のポリシー管理のメンテナンスは不要になります。これにより、長期間にわたるデータ管理にかかるオーバーヘッドはほとんどすべて解消されます。オンライン・ストレージの容量が限界に近づくと、DLMサーバは自動的に、クリティカルなデータをニアライン・メディアに移動します。これにより、環境の中でもっともクリティカルなデータが常に最速の（そして、通常もっとも高価な）ストレージ・メディアに置かれるようになります。そして、重要度の低いデータは、ローコストの別のストレージ・メディアに保管されます。DLMサーバのマイグレーション・ポリシーは、総ファイル数、各ファイルのサイズ、総データ量、パフォーマンス要件などの要素に基づいてカスタマイズ可能となっています。

全ストレージ・ソリューション製品とシームレスに統合

DLMサーバは、SGI InfiniteStorageソリューションのすべての製品群とシームレスに接続できます。そして、構成設定済みで、サイズ変更可能なオプション機能によって、さらに高い可用性とデータ保護機能を装備し、ストレージ戦略の核となります。

高可用性 (HA) - DLMサーバに固有の高い信頼性にアプリケーションのフェイルオーバー機能が加わることでシステム障害時にも環境の完全性が確保されます。SGI InfiniteStorageのHA対応のクラスタリング・ソフトウェアFailSafe®は、障害発生時に自動で、また定期点検時に手動で、アプリケーションやユーザ接続に対してフェイルオーバーを実行し、継続したサービスを実現します。

バックアップ - SGIは、バックアップ・パフォーマンスにおいて世界記録を保持しています。ハイパフォーマンス環境に特化して構築された、唯一完全なバックアップ・ソリューションを提供しています。

サポートされるホスト

- ネットワーク接続
 - NFS、CIFS、Samba®
- SAN 接続
 - Silicon Graphics® 64ビット・システムで稼動する IRIX®、SGI® Altix で稼動する 64ビット Linux®、32ビット Linux® Red Hat® 9.0、64ビット Linux® Red Hat® EL、Solaris™ 8 および Solaris™ 9、AIX® 5L、標準の Intel® Pentium® II 以上搭載またはこれと互換性を持つ PC で稼動する Windows®システム、G4で稼動する MAC OS® X

データ・マネージャ	エントリー	ミッドレンジ	パワー
最大容量 (TB:FC RAID/SATA)	98/168	228/392	228/392
CPU	2	4	8
システムメモリ (GB)	2	4	8
GigE (標準)	3	3	3
2Gb FC ポート (標準)	2	2	2

RAID ストレージ・モジュール

	モデル2000 / モデル3000
モジュールあたりのFC接続数	2/4
モジュールあたりの最大バンド幅	400MB/秒 / 800MB/秒
RAID コントローラあたりのキャッシュ	256MB/1GB
モジュールの搭載可能な最大ドライブ数	112ドライブ/224ドライブ
プライマリ・ストレージ・ディスクドライブ (FC)	146GB 10K/146GB 10K
セカンダリ・ストレージ・ディスクドライブ (SATA)	250GB 7200/250GB 7200

寸法と重量

データ・マネージャ	エントリー	ミッドレンジ/パワー
高さ	8.74cm (2U)	17.48cm (4U)
奥行き	68.58cm	68.58cm
幅	43.33cm	43.33cm
重量	20.23kg	40.46kg

ストレージ・モジュール	ファイバ・チャネル/SATA
高さ	13.3cm (3U)
奥行き	57.6cm
幅	48.2cm
重量 (14ドライブの場合)	40.4kg

ロック	
高さ	182.9cm
奥行き	91.4cm
幅	55.9cm
重量 (空状態)	215kg

ソフトウェア

- データ・ライフサイクル管理機能
- 多層の階層構造をサポート
 - 最大ファイル数: 900万 TB
 - ファイルシステムの最大サイズ: 1800万 TB
 - ストレージ・プールの仮想化
 - ポリシー設定によるマイグレーションの実行
 - マイグレーション、保持、使用のポリシー管理を自動化
 - 非アクティブファイルの複数イメージの作成・管理プロセスの自動化
 - 容量とボリュームの動的拡張
 - パフォーマンス監視
 - システム中断を伴わないアップグレード

- ストレージ・エリア・ネットワーク (SAN)
- CXFS 64ビット・ジャーナル・ファイルシステム
 - XVM ボリューム・マネージャ: 仮想化テクノロジーによりハイパフォーマンスと容易な管理を実現するデータ構造を編成
 - SGI IRIX、Solaris、Windows、Mac OS、Linux、およびその他のUNIX®ノードのサポート
 - SGI InfiniteStorage リソース・マネージャ: 最先端のストレージ・リソース管理

- LAN
- UNIXクライアント・ファイル・サービスを実現する NFS V2/V3
 - Windowsクライアント・ファイル・サービスを実現する CIFS
 - TCP
 - Network Load Balancing Software (NLBS) (オプション機能)
 - Bulk Data Service (BDS™pro) (オプション機能)

- 高可用性のためのオプション機能
- SGI FailSafe 高可用性ソフトウェアによる冗長データ・マネージャ構成
 - SGI® XVM SnapShot によるインクリメンタル・バックアップ (NAS 環境)
 - XVM ミラーリングによるハイパフォーマンスなデータ・ミラーリング

- 復旧およびバックアップのためのオプション機能
- インクリメンタル・バックアップをハイパフォーマンスな合成バックアップに統合
 - イメージ・リストアによる容易で迅速な復旧
 - ディスク・ツリー・テープまたはディスク・ツリー・ディスク・ツリー・テープ・バックアップ
 - 共有ライブリユーティリティ・ソフトウェア

- 動作環境
- 温度 5 ~ 35°C (5,000 MSL)
10 ~ 30°C (10,000 MSL)
 - 騒音 65 dBa 以下

- 電源
- デュアルパワー・インプットライン、シングルフェーズ
 - 電圧 250V (交流電圧: 最小180から最大257 V)
 - 周波数 50/60 Hz
 - 交流配電 250 V、16A
 - 米国: NEMA L6-30P、250 V (交流電圧)、30A
 - 国際: IEC 309、230 V (交流電圧)、32A

©2004 SGI Japan, Ltd. All rights reserved. 仕様は予告なしに変更される場合があります。Silicon Graphics、SGI、IRIX、FailSafe、XFS、SGI のロゴマーク、およびSGIのキューブは米Silicon Graphics, Inc.の登録商標です。CXFS、およびThe Source of Innovation and Discoveryは米Silicon Graphics, Inc.の商標です。LinuxはLinus Torvalds氏の登録商標です。UNIXはThe Open Groupの登録商標です。IntelとPentiumはIntel Corporationの登録商標です。MAC OSはApple Computer, Inc.の登録商標です。Red Hatおよび全てのRed Hatベースの商標は、Red Hat, Inc.の商標および登録商標です。WindowsはMicrosoft Corporationの登録商標です。SolarisはSun Microsystems, Inc.の商標です。このデータシートの中であげられたその他の商標については商標の所有者に所有権が属しています。(06/2004)

日本SGI株式会社

〒150-6031 東京都渋谷区恵比寿4-20-3 恵比寿ガーデンプレイスタワー31階
TEL : 0120-161-086 FAX : 0120-161-087 <http://www.sgi.co.jp>

本社 TEL : 03-5488-1811 (大代表) FAX : 03-5420-7201
西日本支社 TEL : 06-6343-6700 (代表) FAX : 06-6343-6713
中部支社 TEL : 0565-35-2561 (代表) FAX : 0565-35-2189
つくば・東北事業所 TEL : 029-858-1551 (代表) FAX : 029-858-1071
東北営業所 TEL : 022-221-2301 (代表) FAX : 022-221-2304
テクニカルサポートセンター
横浜ラーニングセンター TEL : 045-682-3700 (代表) FAX : 045-682-0850